

週刊住宅

2022年（令和4年）3月14日号
NO. 2999（毎週月曜日発行）

年ぎめ購読料 18,164円 本体・送料込み（税込み19,980円）

発行所 株式会社週刊住宅タイムズ
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町3-3-4 バビル
電話:03-3234-2050 FAX:03-3234-2070
発行人 週刊住宅タイムズ 代表者 鈴木美由紀
2020年6月17日 第三種郵便物認可
問い合わせ:info@sjt.co.jp 情報提供:press@sjt.co.jp



CFネット流 新・大家実践塾

194

「なぜ相続放棄の話に？」

北海道のとある田舎物件

現地へ向かう、役所の真意とは

ZOOMでの相談を受けた。ZOOMでの相談を受けた。生活ができそうな家だった。役所の人に言われたからだ。一応、北海道の現地まで伺った。

事前のメールによると、北海道の田舎で一人暮らしをしている母親に相続が発生した場合に備えて、何

た。しかし、住所を教えていた。だくと、そんな感じでもなさそうだった。母親に借金があるわけでもないのに、なぜ相続放棄を検討されているのか？

「北海道の田舎で一人暮らしをしている母親に相続が発生した場合に備えて、何場やスーパー銭湯などもあ

るようだった。家自体も、敷地内に自宅以外にもRC造の倉庫、そして畑などもあり、こじんまりとした家

を準備しておいたらよいのか。相続放棄をした方がよいのか？」という内容の問い合わせだった。

正直なところ、流水が流れている場所に立っている「ぽつんと一軒家」み

ではなさそうだった。「北の国から」ほどは大きいのではない、北海道らしいのではないのか」と地元

を準備しておいたらよいのか。相続放棄をした方がよいのか？」という内容の問い合わせだった。

正直なところ、流水が流れている場所に立っている「ぽつんと一軒家」みではなさそうだった。

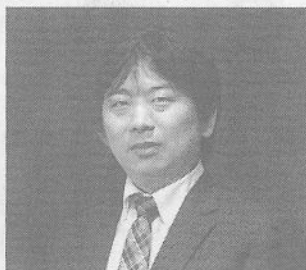
「北の国から」ほどは大きいのではない、北海道らしいのではないのか」と地元

を準備しておいたらよいのか。相続放棄をした方がよいのか？」という内容の問い合わせだった。

正直なところ、流水が流れている場所に立っている「ぽつんと一軒家」みではなさそうだった。

「北の国から」ほどは大きいのではない、北海道らしいのではないのか」と地元

を準備しておいたらよいのか。相続放棄をした方がよいのか？」という内容の問い合わせだった。



7
kob_yashii@kkan
antei.com
電話 0467・22・77
72 ファクス 045・
330・5773 携帯 080・4196・116
鎌倉鑑定 小林雅裕
247-0056 神奈川
県鎌倉市大船2-19-35
4F